

令和5年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート（2月最終報告）

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）		総合評価			
(1)思いやりのある子ども（やさしさ） (2)じょうぶな子ども（たくましさ） (3)よく考える子ども（かしこさ） (4)最後までやりぬく子ども（ねばり強さ）	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子ども (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子ども (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子ども (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子ども		新型コロナウイルスによる活動制限がなくなったことで、学習活動の幅が広がり、精一杯活動に取り組めるようになってきている。一方で、児童の体力の低下や周りの人との関わりが増えたことに戸惑いを感じている児童達もいる。児童の意識や実態を捉え、学校行事や授業の進め方の工夫を行っていききたい。			
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策	
	自分の『思い』や『考え』を 深められる学びの創造	1	支え合う学級づくり	・子ども達の交流する機会が増え、お互いの良さを認めたり、自分に取り入れたりする姿も見られる。学級みんなでやり遂げた感動や一体感を感じている児童が90%を越えている。	A	・異学年との活動や学級活動の一層の充実を図り、互いの違いや良さを認め折り合いをつけられる力をつけていく。 ・児童同士や地域の方との触れ合いの機会を増やし、挨拶の垣根を低くしていきたい。
		2	学び合う授業づくり	ねらいを明確にし、振り返りを意識した授業が定着してきている。自主学習に取り組めている児童が少ない。話し合いのルールが身につけていない児童がいる。	B	学級活動や授業の中で、話し合いのスキルを身につけていくため、学び合う場を工夫し繰り返し行っていききたい。発達段階に応じた自主学習の取り組み方を考えていく。
3		高め合う活動づくり	異学年交流の取り組みでは、お互いの良い所を取り入れたり、後輩に伝え引き継いでいったりすることができた。また、読み聞かせ、クラブ活動など、保護者・地域の方など様々な人との関わりが増えたことで、活動の内容が充実した。	A	学年を越えた交流活動や地域など外部の人から学ぶ機会をこれからも大事にして、子ども達の学びの拡充を図っていく。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	気持ちよく挨拶を交わしている児童が90%近くだった。学校運営協議員からも、授業参観や登下校時に、挨拶がよくできていると評価していただいた。	A	来年度の児童会でもあいさつ活動を継続していく。学年を越えた関わりを増やし、学年を越えて児童同士がまず当たり前に関わりを交わす学校を目指す。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めたりすることができたか。	学級みんなでやり遂げてうれしかったことがあった児童が90%以上であった。学級内や学年を越えた協働的な活動の中で、多くの児童が一体感や成就感を感じることができている。	A	自分の思いを持ち、友と話し合っ折り合いをつけ、より良い解決策を考える活動を繰り返していく。児童が成就感を味わえる体験を大事にしていく。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	Q-Uを元に、具体的な支援をチームで検討し、2学期の支援に繋げることができた。支援の経過や見直しも行っていく必要がある。	B	教務会等で経過を確認しながら、児童の様子について共通理解し、複数職員が関わりながら指導にあたるようにしていく。
	学	共に学びあうための構	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を	保護者や学校運営協議員から、多くの児童が、	A	お互いの話を聞き合う姿勢を大切にしてい

		えをつくる	聞く姿勢を大切に指導することができたか。	はっきり話すことができ、話をよく聞き落ち着いて授業に取り組んでいると評価していただいた。		く。すべての子どもが安心して学べる授業のUD化に取り組んでいく。
		自律して学ぶ力づくり	「つむぐ」等を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じた自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	「つむぐ」の記入を日課に位置付け、翌日の授業内容や家庭学習を確認させた。宿題にはよく取り組んでいるが、自主学習に取り組む姿が少ない。	B	学年の発達段階をふまえ、低高学年会で、自主学習への取り組み方を検討して支援していく。
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	授業のめあてを明確にし、終末の振り返りをして定着させることを大事に取り組んできた。次時につなげる振り返りを意識していく必要がある。	B	今後めあてをはっきりさせた授業を大事にしていく。振り返りは、子ども達が、自己の変容や新たな課題に気づけるよう、さらに工夫していきたい。
	高め合う活動	自主性が伸びる活動づくり	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	行事や清掃、委員会等で、それぞれの役割を持たせ支援してきた。個の児童への支援は、支援員とも連携し進めてきた。清掃を頑張っている児童が多く、周りに認められているという自己肯定感が持っている児童の割合も高い。	A	Q-Uの結果を見ると、個別の支援が必要な児童がどのクラスにもいる。複数の職員で児童を支えて声をかけていくことで、すべての子どもの自己肯定感を高めていきたい。
		児童による協働の学び	異学年との交流の場を設定し、互いの良さ、協働することのよさを実感できる活動づくりができたか。	連学年や低高学年のまとまりで、行事や清掃に取り組んだ。お互いの良い所を取り入れ、また、後輩に引き継ぐねらいを意識して活動できた。	A	引き続き、交流清掃や交流会など、日常の中でも、共に学び合える活動を工夫していきたい。
		地域との学び	地域資源（人材・題材等）を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	クラブ活動や米作りの学習では、地域講師や営農組合と連携して活動を行ってきた。1、2年の生活科では自然に触れる校外学習を行い、地域講師の協力で充実した活動ができた。	A	生活科や総合的な学習の時間をさらに充実させていきたい。学校運営協議会やPTAと協力して、地域の人材をさらに取り入れるため、地域コーディネーターとの連携も進めていきたい。
学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級により、学校ホームページ等を通して、学校での児童の学びを保護者や地域へ発信することができたか。	学校日よりやHPでは、文字を少なくし、写真を増やしてきた。特にHPは、行事等の記事の掲載に加えて、校長先生の願いや思いも頻繁に配信された。保護者や地域の方も定期的に見てくださっていた。	A	子ども達の学びの姿をHPやおたよりで定期的に発信していく。特に、HPについては、来年度もできるだけ配信を増やしていく。
		PTA や地域の方々との連携	PTA や地域の方々との連携し、学校行事等の様々な活動を充実させることができたか。	2学期から、保護者による本の読み聞かせを朝読書で継続的に行ってもらい、子ども達も本に親しむことができた。PTA 作業は参加者が増え、昨年度よりも多くの作業を行っていただけた。	B	学校行事や環境整備では、職員の手が足りていないところがある。地域ボランティアやPTAにも協力を仰いでいく。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった